

## 第2学年1組 道徳指導案

- 1 主題名 手を取り合って〔内容項目C－(12)：社会参画〕 (1時間完了)  
〈資料名 「鳩が飛び立つ日－石井筆子－」 出典：私たちの道徳(文部科学省)〉

### 2 ねらい

学園の火災で子どもたちを失ってしまったことに強いショックを受けて、学園の廃止を決めた後、周囲の人に支えてもらっていたことに気づき、子どもたちのために再び力強く立ち上がる主人公の気持ちを考えることで、人と人が支え合う社会連帯の精神のよさを感じ、社会を構成する一員としての自覚を高めたいという道徳的心情を育てる。

### 3 ねらいとする道徳的価値

中学2年生は思春期まっただ中であり、この時期は社会全体の在り方について自分なりの理想を描くようになる。一方で、こうした理想と現実の社会や大人の姿との間に溝を感じ、社会や大人に対する反発心を抱きがちである。しかし、このような心境の背後には、よりよい社会を実現したいという思いが隠されている。

生徒は1学期に職場体験学習を経験している。地域の方の温かい支えによって、働くことの喜びや苦勞を体験することができた。また、職場体験学習では、地域の福祉施設に行き、お年寄りの介護体験をしてきた生徒がいる。こうした経験から人と人が支え合う社会のよさや温もりを感じている生徒がいる。とはいえ、思春期まっただ中にある生徒にとっては、人と人が支え合う社会のよさは感じていても照れや恥ずかしさがあり、学校生活や日常生活で実際の行動に移すことができていない。

本時を通して、よりよい社会であってほしいという願いは誰しもがもつ共通の思いであり、その実現に向けて努力していくことが社会を豊かにしていくことに改めて気づかせたい。そして、何度でも立ち上がり、障害を抱えた子どもたちのために生きた主人公の気持ちを考えることを通して、自分も社会を構成する一員として、他者と共に手を携え、支え合いながら生きていきたいという心情を育てたいと考えた。

### 4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

#### (1) 学級について

本学級は、男子20名、女子17名、計37名の学級である。リーダーを中心によくまとまっており、リーダーの声に応じてチャイム着席や無言清掃、給食準備などに積極的に取り組むことができています。しかし、そのリーダーも時としてできていない生徒に対して厳しい声や批判的な言動をしてしまうときがある。人には得意なものと苦手なものがある。一生懸命やっても十分にできないときがある。こうした場面でお互いに助け合い、支え合いながら温かい雰囲気の中で学校生活を送ってほしいという願いをもっている。

そこで、本資料を通して、主人公のひたむきな努力や周囲の人に支えられながら立ち上がった心情について考えることで、人と人が支え合う社会のよさを感じ、他者と手を取り、支え合っていきたいという心情を育てたいと考えた。

#### (2) 抽出生徒について

##### ①抽出生徒Aについて

小学校の時には、授業エスケープをしたり、親や教師に反抗的な態度を取ったりするなど問題行動を起こしていた。中学校に入り、問題行動は減少したものの、大人や周囲の友人たちへの批判的な言動が多く見られる。人に支えてもらっていることに感謝することは少なく、人の言動を非難していることが多い。こうした彼を受け入れ、温かく包んでいる生徒は学級に数名いるものの、彼と距離を置いている生徒が多い。

道徳の授業では、本音を包み隠さず発言しており、こうした発言がかえって、周囲から浮いてしまうことにもつながることがある。しかし、Aの本音は、つつい綺麗事を並べてしまいがちになる道徳の授業を、活性化させるという一面をもっている。本時では、「人と人が支え合うなんてきれいごと」や「人のために生きるなんて余裕があるからできること」という考えをもつであろう。こうした本音を「なるほどね」と肯定しつつ、級友たちに「どう思う」と補助発問をして考えをゆさぶったり、級友たちの考えをAに問い返していくことで、人と人が支え合う社会

のよさに気づかせたい。

## ②抽出生徒Bについて

前期級長を務めており、正義感が強く、リーダーシップがとれる。学級に問題が起こったときには率先して注意をすることができる。また、人に対する優しさも持ち合わせており、弱い立場の者に対してもさりげない気遣いをすることができる。こうした性格や普段の行動から周囲からの人望が厚い。

本資料を読み、障害をもった人のために生きたいという主人公の気持ちに強く共感するであろう。Bを意図的に指名し、こうした彼の考えのよさを周囲に広めていく。また、Bの発言に対して「どうしてそう思ったのかな」や「人のために行動したことはありますか」、「人のために行動して、どう思ったのかな」などの補助発問を投げかける。彼の普段の行動の素晴らしさを認めながら、人と人が支え合うことのできる社会について学級全体で考えることができるようにしたい。

## 5 資料について

### (1) 資料の概要

本資料の主人公の筆子は、強くたくましい志で社会を照らし、女子教育や障害児教育の充実に生涯をかけた明治時代の女性である。

フランスに留学し、当時の最先端の学問を学び、女学校の校長として女子教育の充実に力を注いでいた筆子。一方で、障害を抱えた幼い二人の子どもの教育や将来のことが心配で、筆子の心には晴れない思いがあった。そんなときに出会った石井亮一から障害児教育にかける彼の夢を聞き、その夢に共感し、共に歩む決意をする。子どもを病で失っても、学園の子どもたちを守り育てるのが私の使命だと言い聞かせ、辛く苦しいことも乗り越えていった。しかし、学園の教育に取り組んで20年が経ったある夜、学園で火災が発生し、園児6人の命が失われてしまう。

筆子は強いショックを受け、学園の廃止を決意する。ところが、多くの人から励ましの手紙や寄付金が届く。周囲を支えていたのではなく、周囲から支えられていたことに気づき、子どもたちのために再び立ち上がり、自分の選んだ道を進み続ける決意をする。

### (2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

#### ①資料との対話をさせるための手だて

授業の導入で、当時の時代背景について写真を提示しながら簡単に説明する。筆子がかつて鹿鳴館の華として舞踏会などで活躍していたことや、華族の生まれで、女性としては当時とても珍しかった海外への留学経験があることを伝える。基本発問1では、導入で紹介した華やかな筆子の姿から一転して、障害をもった2人の娘を抱え、将来を悲観したり、苦悩したりする筆子の心情を問いかける。生徒は自信に満ちあふれ、女学校の校長として活躍する筆子と苦悩する筆子の心情の大きな違いを知り、筆子のそれからの生き方に大きな興味をもつであろう。

基本発問1では、後半に抽出生徒Aを意図的に指名し、娘たちへの不安を抱える筆子の心情を発表させる。その際に、当時の知的障害をもった子どもたちの状況を簡単に紹介することで、社会に出て活躍する筆子と社会に出て活躍することができない娘たちを抱えた筆子の心情に迫ることができるようにする。中心発問を提示するときに、黒板に筆子の写真とともに「もう一度、何度でも」という台詞入りの吹き出しを掲示する。生徒たちが、主人公の筆子がどんな思いで学園を再開したのか考えやすいようにする。

#### ②他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

中心発問では、机間指導を行い生徒の意見を把握しておく。最初に「寄付金や励ましの手紙を送ってくれた人たちの思いに応えたい」や「自分がいろいろな人から支えられていたことに気づき、恩返しをしたい」という意見を発表させる。こうした意見のよさを認めた後、「他にはどんな思いがあるのだろうか」や「違う思いはないのだろうか」と補助発問を投げかける。「残された学園の子どもたちのために」や「障害を抱えた子どもたちの居場所をつくりたい」、「何があってもあきらめずによりよい社会をつくりたい」という意見を取り上げ、他の生徒に「どう思う」と問い返すことで周囲の生徒の考えのよさや筆子の心情を多面的に捉えることができるようにしたい。

6 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
1 3	○筆子の経歴や人物像を知る。 ○資料の範読を聞く。	
1 0	<p>障害をもって生まれてきた二人の娘を抱え、女子教育に奔走していた筆子はどんな思いをもっていたか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">世間の同情の目に対して負けたくない。日本の将来を担う女性を育てよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">弱い立場の人たちのために何かしてあげたい。私にできることは何だろうか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">娘たちは社会の重荷なのだ…。彼女たちの生活はこれからどうなるのだろうか。(①)</div> </div>	<p>※筆子の鹿鳴館での活躍の様子や華族の生まれで、当時珍しかった外国への留学を行っていたことを紹介し、華やかな生活をしていたことを確認する。</p>
2 0	<p>筆子はこの後どうしたのか。〈補助発問〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;">石井亮一と結婚し、障害児教育の道へ進み、滝乃川学園を作った。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;">娘たちを病気で亡くし、学園の子どもたちが心の支えとなった。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;">学園が火事になり、6人の子どもの命が失われた。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;">学園の廃止を決意した亮一に筆子は黙ってうなずいた。</div> </div>	<p>※抽出生徒Aを意図的に指名して、知的障害のある娘たちをもち、彼女たちの将来を心配する筆子の思いに気づくことができるようにする。また、当時の知的障害をもった子どもは学校に通うことができず、社会に出て活躍することが少なかったという当時の状況を簡単に紹介することで、筆子的心情が理解できるようにする。(①C:気づかせる)</p> <p>※あらすじを確認しながら、「娘を亡くしたときにどう思った」や「あなたならできますか」「筆子をどう思う」などと補助発問を投げかける。筆子の気持ちや筆子の生き方の素晴らしさに気づくことができるようにする。</p>
2 5	<p>「もう一度、そして何度でも」という筆子の決意にはどんな思いが込められているのだろうか。</p> <p>○相互指名で話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">学園の廃止を知って、寄付金や励ましの手紙を送ってくれた人たちの思いに応えたい。(②)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">今まで自分が強い立場だと考えていたけれど、自分がいろいろな人から支えられていたことに気づき、恩返しをしたい。(②)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">子どもたちに私は助けられていた。亡くなった子どもたちのためにも、滝乃川学園の残された子どもたちのために頑張ろう。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">誰もが学校で学び、働くことのできる社会を作りたい。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">何があってもあきらめず、よりよい社会を作りたい。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;">障害を抱えた子どもたちの居場所を作りたい。そのために、自分にできることをしたい。</div> </div>	<p>※黒板に筆子の写真と「もう一度、何度でも」という台詞入りの吹き出しを表示しておき、筆子がどんな思いで学園の再開を決意したのか考えを想起しやすいようにする。</p> <p>※②のような意見に対して、「他にはどんな思いがあるのだろうか」や「違う思いや考えはないのだろうか」という補助発問をし、筆子的心情に迫ることができるようにする。(②E:ゆさぶる)</p> <p>☆級友の意見に耳をすまし、自分の意見と照らし合わせて考えることができたか。(うなづきや挙手、体の反応)</p>

40 筆子が実現したかった社会とはどんな社会だろう。

障害をもった人でも自由に学べて、働くことができる社会。

誰もが自由に学べて、誰もが自由に働くことのできる社会。

人と人が支え合うことのできる社会。(③)

※抽出生徒Bを指名し、発表させる。Bの意見を「なるほど。すてきな社会だね。今、あなたが人を支えていることは何かな。」と補助発問をし、普段の努力や頑張りを引き出し、その行動を大いに評価する。(③B: 評価する)

45 ○振り返りを発表する。

「筆子の生き方を振り返り、筆子の生き方から学べることを書こう」と振り返りの視点を指示する。振り返りを記述している際に机間指導を行い、「人と人が支え合えるように生きていきたい」などのねらいに迫っている意見を把握する。こうした意見を取り上げ、紹介することで、今後よりよい社会を築いていこうとする意欲を高める。

※人と人が支え合う社会連帯の精神のよさを感じられるように、「人と人が支え合えるように生きていきたい」などのねらいに迫った振り返りを書いている生徒を意図的に指名する。

☆筆子の思いに迫り、よりよい社会の実現に向けて意欲を高めることができたか。(発言、ワークシート)

筆子の思いや生き方に自己の今までの生き方を比較し、積極的に話し合いに参加し、自分の今までの行動を振り返りながら、人と人が支え合う社会連帯の精神のよさを感じ、他者と手を携え、支え合いながら生きていきたいという心情を高めた姿。

### 授業の視点

- ① 筆子の思いに迫るために、筆子の写真や吹き出しを活用して、ワークシートや板書を工夫した手だてはねらいに迫るうえで有効であったか。
- ② ②Eにおける教師のコーディネート支援は生徒の思いを広げ、つないで学びを深め、ねらいに迫るうえで有効であったか。

### 7 板書計画

鳩が飛び立つ日―石井筆子―

筆子の写真

鹿鳴館の写

・・・・・女学校の校長  
・・・・・夫死別の障害を抱えた娘  
・・・・・滝乃川学園を創設

決意

・・・女性を育てたい。  
・・・私にできることは何だろうか。

不安

・・・娘たちはどうするのか。  
・・・社会の片隅で…  
・・・夫も死んでしまった…

「もう一度、そして何度でも」  
思いが込められているのだろうか。

筆子の写真

・・・思いに込めたい。  
・・・支えられていたことに気づいた。  
・・・残された子どもたちのために。  
・・・誰もが学び、働くことのできる社会を作りたい。  
・・・あきらめない。

筆子が実現したかった社会とはどんな社会だろうか。

・・・障害をもった人が学べる社会。  
・・・誰もが自由に学べる社会。  
・・・誰でも働くことのできる社会。  
・・・人と人が支え合うことのできる社会。